

令和 8 年度国際理解ワークショップ 進行シート

令和 8 年 8 月 17 日作成

大 学 名 : 新潟国際情報大学

タイトル : 「察して」を超えて～みんなちがってみんないい～

1. 本ワークショップに関連する SDGs の目標に○印をつけてください。

○印	SDGs17の目標	○印	SDGs17の目標	○印	SDGs17の目標
	 ① 貧困をなくそう		 ⑦ エネルギーをみんなに そしてクリーンに		 ⑬ 気候変動に 具体的な対策を
	 ② 飢餓をゼロに		 ⑧ 働きがいも 経済成長も		 ⑭ 海の豊かさを 守ろう
	 ③ すべての人に健康と 福祉を		 ⑨ 産業と技術革新の 基盤をつくろう		 ⑮ 陸の豊かさも 守ろう
	 ④ 質の高い教育を みんなに		 ⑩ 人や国の不平等 をなくそう		 ⑯ 平和と公正を すべての人に
	 ⑤ ジェンダー平等を 実現しよう		 ⑪ 住み続けられる まちづくりを		 ⑰ パートナリーシップ で目標を達成しよう
	 ⑥ 安全な水とトイレを 世界中に		 ⑫ つくる責任 つかう責任		

2 : 本ワークショップの要旨

私たちは一人ひとり、異なる生活環境のなかで育ち、多様な価値観を持っています。しかし日本社会には、互いに察し合う文化や同調圧力が根強くあり、文化や背景の異なる相手とのすれ違いを生むこともあります。だからこそ、価値観が多様であることを前提に、「分かり合えないこと」から出発するコミュニケーションが必要です。本ワークショップでは、答えのない問いをみんなで考える「哲学対話」を通して、なぜ相手はそう感じるのかを想像し、他者の価値観を尊重する共感力と想像力を育みます。

3 : 本ワークショップの目的(目標、実現したいこと)

哲学対話を通して、児童・生徒が主体的に学び続ける姿勢を身に付けることを目的とします。答えが一つではない問いについて仲間と対話しながら考え、自ら学び、探究することの楽しさや価値を実感することを目指します。

4 : 本トピックをとりあげる理由

平成 29・30・31 年改訂の学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現が重視されている。哲学対話は、自ら問いを立てて考え、他者との対話を通して理解を深める活動です。また、これからの社会を生きる児童・生徒には、主体的に学び続ける力や、多様な価値観をもつ人々と対話する力が求められるため、本トピックを取り上げる意義があります。

5 : 活動過程 朝日中学校 9月4日

(使用時間 : 110 分(予備 5 分) ①10:30-12:20(3-4 限)、3 年生 44 名 6 人班× 5 つ、7 人班× 2 つ
②13:30-15:20(5-6 限)、1 年生 38 名 6 人班× 4 つ、7 人班× 2 つ

過 程 (所要時間)	活動内容	具体的な発問・ 説明・動きなど	ねらい	使用する 教材・備品	予想される反 応、その他注意 事項
ワークショッ プ前		参加者に名札シ ールに 自分の下 の名前をひらが なで記入し、服 に貼ってもら う。	全員の名前 を覚えるた め。	名札シール ポインター	ファシリテー ターがペンを用意 しますが、ペンは なんでも OK で す。
導 入 : 起 (24 分)	あいさつ (2 分)	大学生が前に出 て簡単な自己紹 介をする。 ・担当班 ・自分の名前	大学生の名 前を知って もらう。	ルール・目的 が書かれた模 造紙(黒板や ホワイトボー ドに貼る。)	遠くに座ってい る人にも良く聞 こえる声で元気 よくあいさつを する。
	ワークショッ プのルール・ 目的・流れの 説明 (2 分)		参加者に今 日のルール・ 目的・流れを 理解しても らう。		
	アイブレ案 椅子取り、フ ルーツバスケ ット等 【20 分】 説明 : 1 分 実施時間 : 19 分	ファシリテー ターも含めて全員 で行う。 各班の ファシリテー ターから時計回り で発表をする。	緊張感を少 しずつほぐ し、誰もが話 しやすい場 を作る。		参加者の緊張を ほぐすために、フ ァシリテーター は場を盛り上げ る。

過 程 (所要時間)	活動内容	具体的な発問・ 説明・動きなど	ねらい	使用する 教材・備品	予想される反 応、その他注意 事項
展 開：承 (17 分)	哲学対話について (2 分) 哲学対話の問 いを決める (15 分) 残り 2 分でベル	会話と対話の違い、哲学対話の 定義、ルールの 説明をする 問いの候補とそ の他自分たちで 考える問いの中 から各班話し合 って、問いを一 つに絞る。	哲学対話に ついて理解 を深めても らう。 問いを参加 者に決めて もらうこと で、次の哲学 対話で主体 的に、活動に 取り組んで もらう。	哲学対話の問 い 哲学対話ルー ル	最後まで決まら なかった場合は、 最終手段として 多数決を取って も良い。なるべく 話し合いで決め ましょう。
休憩 10 分					
過 程 (所要時間)	活動内容	具体的な発問・ 説明・動きなど	ねらい	使用する 教材・備品	予想される反 応、その他注意 事項
発 展：転 (43 分)	前半の振り返り (2 分) 哲学対話の実 践 【34 分】 哲学対話のや り方の説明 (4 分) 実践 (30 分)	各班の問いの確 認、哲学対話の ルールの確認 各班で決まった 問いを哲学対話 を通して話し合 う。	次の活動の ための再確 認 哲学対話を通 して、自己・他 人の価値観を尊 重する共感力と 想像力を育む。	コミュニティ ボール お守りシート (大学生用)	ルールに必ず従 う。 各班の大学生に 進行はお任せす る。 ある程度進行内 容に沿って行 うが、班の大学生 がやりやすいよう に自分なりの型 を見つけてもら う。

	哲学対話の内容を発表しよう（7分）	・どの問いについて話し合ったか ・どのような意見が出たか ・どんな発見があったか ※発表は各班のファシリテーターが行う。	他の班の発表について聞いて、新しい意見を見つけてみる。		話をしっかりと聞き、発表後は拍手をしましょう。
過 程 （所要時間）	活動内容	具体的な発問・説明・動きなど	ねらい	使用する教材・備品	予想される反応、その他注意事項
まとめ：（結） （11分）	振り返り 【8分】 説明（1分） 記入（5分） 司会が共有（2分） まとめ （2分）	哲学対話を通しての感想や感じたことなどを振り返りシートに書き出し、各班で発表を行う。 ワークショップ全体の振り返りをする。 ワークショップ全体のまとめと参加者に今後どうなってほしいかを伝える。	今後の対話に必要なことを見つけてもらう。	振り返りシート	上手く書けてない生徒には、ファシリテーターが少し手伝ってあげる。

6：会場のセッティング（対面の場合のみ）

椅子で円をつくる。できるだけ、円は小さくセッティングする。

7：使用する教材

- ・ 模造紙（ルール, 目的）
- ・ バインダー（メモ用紙）
- ・ 哲学対話の問いシート
- ・ 哲学対話のルール
- ・ コミュニティボール
- ・ 振り返りシート
- ・ 模造紙
- ・ ペン

8：参考にした資料

- ・ アーダコーダ，2019，『こども哲学対話ハンドブック』アルパカ合同会社.
- ・ 梶谷真司，2018，『考えるとはどういうことか—0 歳から 100 歳までの哲学入門』幻冬舎.
- ・ 納富信留，2020，『対話の技法』笠間書院.

9：その他